

日本の幼児教育の課題： 東アジアの試みから学ぶ

東京大学乳幼児保育実践政策学セミナー「園におけるリーダーシップ：東アジアの改革動向」東京大学福武ラーニングセンター
2016年1月10日
無藤 隆（白梅学園大学）

1. 幼稚園・保育所、公立・私立を統合的な枠組みに位置づける

- ▶ 幼稚園教育要領と保育所保育指針をできる限り近づける。
- ▶ 認定こども園を中心とした幼保の体制を整備する。
- ▶ 一つの行政の管轄下に置く。
- ▶ 補助金体系を同様のものとする。
- ▶ 民間の保育者の待遇を少しずつ上げていく。

2. 園の保育を専門家の検討に公開する

- ▶ 行政担当者の知見を上げ、監督を実質的な意味を持たせる。
- ▶ 園の保育の公開を広げ、専門家が観察することを可能にする。
- ▶ 幼児教育アドバイザーがすべての園に回って助言することを可能にする。
- ▶ 第三者評価を拡充し、いずれすべての園が受けるようにする。
- ▶ 専門家の評価での観察等の尺度やエピソードの検討の仕方を確立する。

3. 保育者の専門性を向上させる

- ▶ 養成課程のレベルを上げるための第三者評価を導入する。
- ▶ 初任保育者の研修を拡充し、助言役（メンター）を導入する。
- ▶ 定期的な研修を奨励する。
- ▶ 園内での保育の記録を取り、それを見直して、指導計画を修正していくやり方を普及させる。
- ▶ 中堅保育者のリーダーシップ研修を進める。特に園全体を見ることが、後輩の指導に当たるようにする。

4. リーダー層・園長の専門性を向上させる

- ▶ 現状では園長についての具体的な資格要件や研修義務が課されていない。
- ▶ 少なくとも一定の研修を義務として課すべきである。
- ▶ リーダー層・園長は、次のことを最低限含むべきである。
 - 1) 保育者が持つべき資質のキャリアごとの理解。
 - 2) それに基づく研修の体系的確保。
 - 3) 保育の記録とカリキュラムの作成。
 - 4) 保育現場のあり方の見直し。
 - 5) 保育者同士の人間関係への配慮。
 - 6) 指導者の育成のための仕組みの構築。
 - 7) 園のチーム力形成のための促しのスキル。
- ▶ 幼児教育・保育の全国的動向に基づく園の理念の再構築。
- ▶ 保護者への連絡・説明・啓発。
- ▶ 10) 財務を含む経営。

5. 幼児教育アドバイザーとは何をするのか

- ▶ 幼稚園・保育園の保育の経験者で、出来れば、大学院修士課程修了レベルの知見を持っていること。
- ▶ すべての幼保、公私の園を巡回する。
- ▶ 基本的には園の招きに応じて訪問する。
- ▶ 各園の理念を尊重する。
- ▶ その園として受け入れ可能なアドバイスをする。
- ▶ 園の記録の情報交換の場を作る。
- ▶ 幼児教育アドバイザーの研修を自治体が進める。
- ▶ 目指すのは地域全体の幼児教育の質の向上である。